

○主訴＝ひどい頭痛

<前分析>

①印象＝知的でテキパキした話し方。威圧感はない。腰も低い感じで話しやすい。  
弁護士にも関わらず、話の筋道が分かりにくい。(直感的で飛ぶ感じ)

②健康度＝6～8

③予後

◎良いレメディが見つかったら・・・

頭痛とふら～はなくなる。予期不安や恐怖心が減り、試験に強くなり、法廷でも人前でも平静でいられるようになる。TV にも出られるかも知れない。

◎良いレメディがなかったら・・・

頭痛とふら～は続き、予期不安や必要以上の恐怖心は、年齢とともに強くなり、人前でのパニックが起きるようになるかも知れない。

④急性か慢性か＝慢性

⑤治癒を妨げているもの＝無し

⑥親和性(部位)＝精神、神経、脳、心臓(胸)、直腸、喉、

⑦マヤズム傾向＝Cancer

⑧全体性＝1つ

⑨バイタリティー＝6～8

<分析～特徴的な症状 SRP をピックアップして眺めてみる>

◆精神症状

◎予期不安と強い恐怖

・試験前

・人前(法廷／話す時)・仕事の責任(10 億の案件)

・高所・閉所・病気・何が起きるか分からないこと(TV に顔が映ることで)

◆身体症状

◎頭痛。(主訴)

・元々は激痛。

・20 年前に、フラツキとともに頭を柔らかく押さえつけられる頭痛に変わり、

・10 年前からは、常時、頭(後頭部)を締め付けられる激しい痛みになった。

◎フラフラ(めまい)

・急に起きる。後ろに引っ張られるような。人前で話す時、スケートする時も。

・歩いている時、泳いでいる時、左に引っ張られるような。

◎心臓(フラフラと同時に起きる)

・鼓動が止まりそうな恐怖

<統合>

予期不安感と恐怖感が強いため、心身全体が大きく乱れる神経過敏の人  
身体面への影響は、その敏感すぎる神経を通じて、激しい頭痛・めまい・ふらつき・心臓の不調・  
下痢症状となって表現されている。

・・・こういうレメディを探す。

以上